

◆ 議長記者会見概要

日 時：平成29年6月16日（金）13：40～14：00

場 所：県政記者クラブ（県庁内）

出席者：川口正志議長、小泉米造副議長、荻田義雄広報委員会座長



川口正志議長

小泉米造副議長

荻田義雄広報委員会座長

〈案 件〉

（1）この1年の県議会の取り組みについて

議長就任後の1年間を振り返り、ご報告をさせていただきます。

①議員提案による「奈良県手話言語条例」の制定

まず、第1は、議員提案により「奈良県手話言語条例」を制定したことです。昨年8月に開催した高校生議会に参加された生徒の皆さんから条例制定の提案をいただいたことが、障害者施策に積極的に力を入れないといけないという私の思いを強くしました。厚生委員会において検討を重ね、本年2月定例会にて可決されるに至りました。また、条例制定と並行させながら、議会本会議場の中継における手話通訳の導入を進められたことは、いい取り組みであったと自負しております。

②政務活動費に関する議会改革の取り組み

次に、政務活動費の問題です。議会改革の中心的、今日的な課題であり、議会改革推進会議において、7回に及ぶ協議を重ね、本年4月には「奈良県

政務活動費の交付に関する条例「政務活動費の手引」の改正をいたしました。主な改正点は、議長の責務、会派の責務、そして議員の責務の明確化、契約書や活動報告書等の添付を義務づけたということ、親族との契約の制限、領収書等のインターネット公開、などで、議長の調査及び第三者機関の設置についても規定し、会計士、弁護士の方2名を第三者機関の委員としてお願いすることにいたしました。今後も、政務活動費の適正な運用執行について、議員一人ひとりが十分に自覚をしてもらうことを申し合わせた次第です。

③紀伊半島三県議会交流会議の開催

昨年7月29日、万葉文化館において、紀伊半島三県議会交流会議を開催しました。これは、奈良・三重・和歌山の3県議会が、共通の課題に対して協議を行い、合意した事項については連携して取り組んだり、国に対して共同して要望を行うものです。昨年は、奈良県で開催された関係で、私が代表して国への要望をお届けしたところです。

④核兵器廃絶を求める決議の議決

2月定例会で、核兵器廃絶を求める決議を全会一致で議決しました。これは全国でも先駆的な取り組みです。この決議は英文に翻訳して国際連合にも送付いたしました。奈良県は、昭和63年に国際文化観光平和県宣言をおこなっており、国際平和に関わってのリーダー的な役割を常に自覚しなければならない、ということを表すことができたと思っています。

⑤中国（成都市）開催の東アジア地方政府会合への参加

5月には、中国四川省成都市で開催された東アジア地方政府会合に参加させていただきました。この会合は毎年奈良市内で開催されておりましたが、8回目となる本年、はじめて県外、国外で開催されました。四川省は、パンダの生殖地であるという縁で、日中友好の関わり合いの深い都市でもあります。国家間での友好親善の催しだけではなく、地方都市間でこういった取り組みをすることは、意義深いことであり、国外でこのような会合が開催されることで奈良県が国際的なリーダー的役割を発揮できるよう、議会としても支援していきたいと思っています。

（2）その他の出来事について

私は、全国都道府県議会議長会の農林水産環境委員会の委員長を務めさせていただきました。食料・農業・農村政策の推進、とりわけ環境問題への対応にも力を入れて、全国都道府県の議長を代表して取り組ませていただきました。

また、これは私自身というよりも、私が会長をしている南部議員連盟を中心とした取り組みですが、毎年10月に行っている知事や南部地域の市町村長や議長等が参加する懇談会だけでなく、本年1月には南部・東部地域の振興を推進する集いを開催しました。県政は、南部・東部地域の振興にとりわけ力を入れていただいておりますが、紀伊半島大水害から5年が経過したことを契機として、天川村や十津川村に赴き、現地の状況を見学後、災害復旧対策とその推進、南部地域の特に観光、山林、産業政策に関わっての推進について、副知事、県関係部局長、地元村長や関係団体の方々が一堂に会し意見交換を行いました。

最後になりますが、県内市町村、とりわけ県が進めている奈良モデルとの関係においても、奈良県議会として積極的な関わりを持って、議長、副議長、荻田委員長を中心に展開し、取り組むことができたと思っています。

以上雑ぱくな内容となりましたが、1年間皆さんにご協力いただいた御礼のごあいさつといたします。ありがとうございました。

<質 疑>

Q：それぞれ一番印象に残った仕事を挙げていただけますか。

議 長：本日申し上げたことはすべて印象に残っています。そのなかでも、核兵器廃絶を求める決議がいちばん大事な国際的な取り組みであり、全国でも奈良県議会が先駆的に的を射た取り組みを行ったと自負しております。

副議長：議長が最初に言われた2つのことです。手話言語条例の制定、政務活動費の問題が大きかったと思います。

広報委員長：「開かれた議会運営」ということで、取り組んできました。議会改革推進会議で、議会運営のあり方について検討を重ねました。質問方式に一問一答を導入すること、決算特別委員会の採決時期を変えることなど、議論しましたが、常に改革をしていく必要があることを感じています。

Q：議長2回目ということで、前回と変わった点などはありますか。

A：前回の議長就任は8年前です。議員のみなさんも8年経てば新しい議員さんもおられます。私としては、むしろ2回目は気持ちを新たに、若返ったつもりでさせていただきました。

Q：1年を通しての議会運営は、点数をつけるとすれば何点ですか。

A：100点ではないですか。とにかく自負をもって、常に100点のつもりでやりました。初めから50点だったとか60点だったという評価はしたくありませんし、私も、副議長も、荻田委員長も全力投球だったと思い

ます。

Q：今後の議会に残された課題はありますか。

A：例えば政務活動費などもそうですが、今後も議会活動を着実に段階を踏んでいけば展望はあると思います。

Q：昨年政務活動費の問題が明るみに出て、議会改革も進みましたが、議員の間で意識が変わった点、また今後どのようにして再発防止に努められますか。

A：手引や方針を確認し、各自が自らを叱咤しながら一生懸命やる以外にないのではないかと思います。意識は、議員各自で変わっているはずです。